

兵庫県スポーツ少年団軟式野球大会競技規約(交歓大会・総合競技大会)

- 1 競技ルールは、原則として全日本軟式野球連盟公認野球規則に準じて行う。
ただし、使用する会場により特別規則を定める。
- 2 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認J号を使用する。
5月開催 交歓大会(内外ゴム株式会社)
8月開催 夏季選抜大会(ナガセケンコー株式会社)
12月開催 総合競技大会(内外ゴム株式会社)
2月開催 交歓大会(マルエス株式会社)
- 3 試合時間は90分(6回戦)で行う。時間を過ぎて新しいイニングに入らない。
※コールドゲームを採用する。(3回10点差、4回以降7点差で成立)
※6回または、90分を超えて同点の場合はタイブレーク(1回)で勝敗を決する。
※タイブレークは無死1塁、2塁で継続打順とし、前打者2名が順次塁を埋める。
※決勝戦のタイブレークは、1回で勝敗が決しないときは2回行う。
※タイブレークでも勝敗が決しないときは、抽選により勝敗を決する。
※試合は90分6回戦であるが、日没、降雨、発雷等でイニングが6回まで進まなくても4回を終了していれば試合は成立する。不成立となった場合は再試合を行う。
- 4 第1試合のチームは試合開始30分前にはメンバー交換用紙を提出し、大会役員の指示に従うこと。
第2試合以降は、前の試合開始後30分を経過したら本部に提出する。
なお、試合開始が早まる場合があるので、前試合の進行状態を把握のうえ対応のこと。
メンバー交換用紙は、控えの選手も全員フルネームふりがなを記入し5部提出すること。
※メンバー表の修正があればメンバー表の交換までに修正し、メンバー表の交換後はメンバー表の追加、修正は出来ない。
- 5 試合予定時間に試合のできる状態にないチームは棄権とする。
- 6 試合当日は、球場責任者が携行する大会申込書により試合の運営を行う。
- 7 抗議のできるのは監督と当該プレーヤーのみとする。ただし1分以内とする。
- 8 監督、コーチはチームと同一のユニフォームを着用のこと。
スパイクのメーカーおよび色は同一でなくても可とする。アップシューズも認めるが、運動靴は怪我等への配慮から不可とする。背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将は10番その他の選手は0番～99番とする。 ※ユニフォームの右袖には団員は団員章、指導者は指導者章を付ける。
- 9 監督、コーチともユニフォームを着用していない時は、それぞれ監督、コーチとして認めない。
※ユニフォームを着用していない指導者は、練習中でもグラウンドに出ることは許されない。
- 10 試合当日に届出の監督が不在の場合は、誰が代行者になるのかメンバー交換用紙の監督欄に「代」と記入すること。
- 11 試合の先攻、後攻を決める場合、主将と監督は同席し、グラウンドルール等について説明をよく聞いておくこと。
- 12 ベンチ入りは、指導者6名(代表者、ユニフォーム着用指導者3名、スコアラー、マネージャー)と登録選手20名以内、試合における選手の人数は10人以上とする。
(1) 代表者とスコアラー、マネージャーは、自チームの帽子を着用し、ユニホームの着用は不可とする。
(2) グランドジャンパーは、自チームと同等のものを着用する。

- 13 用具は、JSBB公認のヘルメット(両耳付き)及びプロテクター、レガース、バットを使用すること。
※打者、次打者、走者、ベースコーチはヘルメットを着用すること。
※投球練習の時、捕手(代理の捕手を含む)は必ずマスク、プロテクター、レガース、を着用すること。
※男子の捕手は、ファウルカップを着用すること。
- 14 投手は変化球を投げることを禁止する。
※1度目は注意、2度目には交替させる。以降その試合での投手はできない。
- 15 打者は必要以外に打者席を外してはならない。(サインを見るとき等)
- 16 次打者は次打者席に立って待機する。バットの素振りをする場合は、周囲に人がいないことを確かめてから行うこと。投手が投球動作に入れば、バットの素振りは禁止する。
- 17 攻守交代は全力疾走で行うこと。
- 18 本塁打の場合、走者が本塁ベースを踏むまでに他の選手がベンチを出て迎えることを禁止する。
ベースコーチ、次打者と接してはならない。
- 19 ファウルボールは1塁側に飛んだ時は1塁側の選手が、3塁側に飛んだ時は3塁側の選手が処理すること。
またバックネット側は、攻撃側の選手が処理すること。
- 20 試合開始及び試合終了時の挨拶について、指導者はベンチ前に整列して挨拶を交わすこと。
※試合終了後、選手の本部席への挨拶は無しとする。
- 21 試合終了後、両チームの指導者はグラウンド整備を行うこと。
- 22 各球場は公共施設であり、ゴミは必ず各チーム持ち帰ること。
- 23 次の事柄を禁止する。
 - (1) ベンチ入り指導者の試合中の喫煙。(ベンチを出ての喫煙も含む)
 - (2) 試合を故意に遅らせること。
 - (3) グラウンド内での指導は、ユニホーム着用の監督、コーチに限る。
 - (4) 本部席に必要以外に立ち入ること。
 - (5) 応援での鳴り物(笛、太鼓、ペットボトル、メガホン等)の使用。
 - (6) ベンチへの携帯電話の持ち込み。
- 24 指導者、選手及び応援団を含めて、著しく品位を汚し、また審判員を誹謗する言動があった場合は、没収試合とすることがある。
- 25 試合中の事故について、応急措置は行うが主催者はその責任を追わない。
- 26 投手の投球制限については、健康維持を考慮し一日70球とする。タイブレークも投球数に数える。
※打撃中に70球に達した場合は、その打者の攻撃中に攻守交替となるか打撃が完了するまで投球することが出来る。なお、投手の投球数について当該チームと大会本部とに差異があった場合は、大会本部の記録を優先し抗議の対象とならない。4年生以下の投手は一日60球以内とする。
- 27 申告敬遠は認める。
- 28 天候、会場使用時間等により大会運営上試合開始を予定より早めることがある場合は、本部の指示に協力すること。
- 29 手袋は、攻撃側と守備側で次の通り認める。
 - (1) 攻撃の時は、両手に着用可(ベースコーチも含む)
 - (2) 守備の時は、グラブ側のみ着用可(投手は不可とする)
- 30 ベンチ内の選手・監督・コーチ・スコアラー・マネージャーおよびベースコーチはグラウンドコートの着用を認める。

以上

兵庫県スポーツ少年団軟式野球大会競技規約の補足

1. ネックウォーマーの着用について
大会本部の許可を受けてから着用することとする。
2. ボールボーイについて
チームの指導者または保護者1名が対応する。 服装は、チームの帽子を着用しユニフォームの着用は不可とする。
3. ゲーム中のミーティングの回数について
 - (1) 監督が投手のもとへ行く回数の制限
 - ① 監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。
タイブレークは、1イニングに1回行くことが出来る。
 - (2) 守備側のタイムの回数制限
 - ① 捕手または野手が1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。
タイブレークは、1イニングに1回行くことが出来る。
野手(捕手も含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は監督の回数にカウントしない。
 - ② 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることが出来るが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。
 - (3) 攻撃側のタイムの回数制限
 - ① 攻撃側のタイムの回数は、1試合に3回以内とする。 タイブレークは、1イニングに1回とする。
 - ② 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることが出来るが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。
 - (4) タイムは、1分以内とする。
4. 次試合の投球練習について
メンバー表を提出して本部でメンバー表のチェックが済んだ後、本部指示により先発のバッテリーはブルペンやグラウンド内で投球練習をすることが出来る。
ただし、指導者は、ブルペンやグラウンド内に立ち入ることは出来ない。
その他会場の本部の指示に従うこと。
5. 応援マナーについて
 - (1) メガホンを叩いて音を出しての応援は禁止する。
 - (2) 相手を威嚇するような応援はしないこと。
 - (3) 技量等を指摘するような言葉は慎むこと。
6. ユニフォームの名称について
登録チーム名と整合した名称のユニフォームを着用する。
7. 第1試合チームの野球用具のベンチへの運び込みは、大会本部の許可が出てから行うこと。
8. ベンチ内へ椅子の持ち込みは禁止する。(備え付けの物を使用すること。)
テーブルは、スコアラー用および水筒置き場に限り持ち込みを許可する。

以上